



## ロシア：「対極」の世界から (6) ～「対極」を構成していたロシアと 他の旧ソ連諸国との現在の関係～

ロシア連邦・サンクトペテルスブルグ国立大学留学中

服部 祐也

冷戦時代、アメリカを筆頭とする資本主義国と世界を二分したもう一方の大国、ソビエト社会主義連邦共和国。今回は、そこから独立した各国が、ソ連の国際的権利を継承したロシアと現在どのような関係にあるか、一端をご紹介します。

### 1. はじめに ー旧ソ連圏への関心ー

ロシアが旧ソ連を構成する一主体だったことは周知の事実です。かつて世界の陸地面積の約六分の一をも占めていた世界の極、ソ連。その崩壊から20年が経とうとしています。当時まだ幼かった私にとって、残念ながらリアルタイムでソ連崩壊を目の当たりにした記憶はありません。小学校入学時に祖父に買ってもらった地球儀の“ソビエト社会主義連邦共和国”との表記が、この歴史上の大きな出来事が自分の生まれた後に起こったのだということを物語る、数少ないものの一つです。

一方で、16カ月が過ぎたロシア・サンクトペテルブルクでの生活では、行列、非効率な業務、仕事に対する受け身の姿勢など事あるごとにソ連時代を意識させられます（一部は本寄稿 No.29・30・31 にてご紹介させて頂きました）。

### 2. 旧ソ連圏から受ける印象

#### ー多様性、多様化する現在ー

ソビエト社会主義連邦共和国。かつてこれを構成し、独立を果たした15の国は現在どのような状況にあるのだろう。その内の1カ国であるロシアとは違うのだろうか。こうした好奇心から、私はこれまでウクライナ、カザフスタン、ベラルーシ、グルジア、モルドバに足を運びました。同地域を訪れ、現地を見、人々の考えを聞き、政治経済情勢を垣間見、強く思うこ

とは、「元々全く違う背景（言語・文化・宗教・人種・生活環境〔山岳民族や遊牧民族も含まれていた〕）を持った人々を、ソ連が共産主義という一つのイデオロギーで約70年もの間纏めていたことは驚きに値する」ということ、「旧ソ連諸国は、ロシアや西欧諸国との地理的・政治的・経済的・文化的関係から、国によって親露路線だったり反露路線だったり、進んでいる方向性が異なっている」ということ、そして「ロシアから離れようとしている国々に於いては、旧ソ連時代に教育を受けてきた中年層以上とソ連崩壊以降に生まれた若年代間に、決定的な『断絶』がある」ということです。それらの一例としてグルジアについてご紹介します。

### 3. グルジアの例

#### ー脱ロシア、世代間による意識の違いー

グルジアはコーカサス地方に位置します。人口はおおよそ426万人で、宗教はグルジア正教が大半を占めます。気候は他旧ソ連諸国には珍しく温暖な気候です。その公用語は、ロシア語とは全く似ていないグルジア語です。人々はロシア人とは異なる外見をしており、人をもてなすのが非常に好きな民族です。（尚、ソ連時代の指導者スターリンはこの国の出身です。）この国の人々の気質はロシア人とは異なります。グルジア人は大らかで、初対面の人にも非常に親切です。良くも悪くも感情的であるとの指摘もあります。例えば、私がおじさんに道を尋ねると「じゃあ、そこまで車で連れて行ってやる」とその場所まで連れて行ってくれたり、丘の上の遺跡で出会った子供達は普段旅行者が辿り着かない場所まで案内してくれたりしました。世界遺産を見る為にチャーターしたタクシーの運転手は、私が下車してある場所を観光中に車を飛ばし、グルジア人の間で人気のピロシキを、わざわざ有名店で買ってきてご馳走してくれました。

旧ソ連時代の方が人々は優しくたとロシア人はよく話していますが、それを考慮しても、私が現在暮らしているロシア・サ



グルジア。現地の人々に案内された丘の上にて。筆者は左から4番目